



フェイルオーバー グループとポリシー

ONTAP 9

NetApp
February 12, 2026

目次

フェイルオーバー グループとポリシー	1
ONTAPネットワーク上のLIFフェイルオーバーについて学ぶ	1
ONTAPフェイルオーバー グループを作成する	1
LIFでONTAPフェイルオーバー設定を構成する	2
フェイルオーバーの設定例、および無効化の例	3
フェイルオーバー グループとポリシーを管理するためのONTAPコマンド	4

フェイルオーバー グループとポリシー

ONTAPネットワーク上のLIFフェイルオーバーについて学ぶ

LIFのフェイルオーバーとは、LIFの現在のネットワーク ポートでリンク障害が発生したときに、別のネットワーク ポートにLIFを自動的に移行する機能のことです。これは、SVMとの接続の高可用性を実現するための重要な機能です。LIFのフェイルオーバーを設定する手順は、フェイルオーバー グループの作成、フェイルオーバー グループを使用するためのLIFの変更、およびフェイルオーバー ポリシーの指定に分かれています。

フェイルオーバー グループは、クラスタ内の1つ以上のノードのネットワーク ポート（物理ポート、VLAN、インターフェイス グループ）をまとめたものです。フェイルオーバー グループにあるネットワーク ポートによって、LIFで使用可能なフェイルオーバー ターゲットが決まります。フェイルオーバー グループには、クラスタ管理LIF、ノード管理LIF、クラスタ間LIF、およびNASデータLIFを割り当てることができます。



LIFが有効なフェイルオーバーターゲットなしで設定されている場合、LIFがフェイルオーバーを試行すると停止が発生します。`network interface show -failover` コマンドを使用して、フェイルオーバー設定を確認できます。["ONTAPコマンド リファレンス"](#)の`network interface show`の詳細をご覧ください。

ブロードキャスト ドメインを作成すると、同じネットワーク ポートを含み、同じ名前の付いたフェイルオーバー グループが自動的に作成されます。このフェイルオーバー グループはシステムによって自動的に管理されます。つまり、ブロードキャスト ドメインのポートが追加されたり削除されたりすると、フェイルオーバー グループのポートも同様に自動的に追加または削除されます。この機能によって、管理者が自分のフェイルオーバー グループを管理する手間を省くことができます。

ONTAPフェイルオーバー グループを作成する

ネットワーク ポートのフェイルオーバー グループを作成して、LIFの現在のポートでリンク障害が発生したときに、LIFが別のポートに自動的にフェイルオーバーされるようにします。これによりシステムは、ネットワーク トラフィックをクラスタの別の使用可能なポートに再ルーティングできます。

タスク概要

```
`network interface failover-groups  
create` コマンドを使用してグループを作成し、グループにポートを追加します。
```

- フェイルオーバー グループに追加できるポートは、ネットワーク ポート、VLAN、インターフェイス グループ (ifgrp) です。
- フェイルオーバー グループに追加するすべてのポートが、同じブロードキャスト ドメインに属している必要があります。
- 1つのポートを複数のフェイルオーバー グループで使用できます。
- 複数のLIFが異なるVLANやブロードキャスト ドメインに存在する場合は、VLANやブロードキャスト ドメインごとにフェイルオーバー グループを設定する必要があります。

- フェイルオーバー グループは、SANのiSCSI環境とFC環境には適用されません。

手順

フェイルオーバー グループを作成します。

```
network interface failover-groups create -vserver vs3 -failover-group failover_group_name -targets ports_list
```

- `vs3` は、フェイルオーバー グループを使用できる SVM の名前です。
- `failover_group_name` は、作成するフェイルオーバー グループの名前です。
- `ports_list` は、フェイルオーバー グループに追加されるポートのリストです。ポートは `node_name>:port_number` の形式で追加されます (例: node1:e0c)。

次のコマンドは、SVM vs3にフェイルオーバー グループfg3を作成してポートを2つ追加します。

```
network interface failover-groups create -vserver vs3 -failover-group fg3 -targets cluster1-01:e0e,cluster1-02:e0e
```

終了後の操作

- フェイルオーバーグループが作成されたら、フェイルオーバー グループをLIFに適用する必要があります。
- LIFに対応する有効なフェイルオーバー ターゲットがないフェイルオーバー グループを適用すると、警告メッセージが表示されます。

有効なフェイルオーバー ターゲットのないLIFがフェイルオーバーしようとする、システムが停止する可能性があります。

- `network interface failover-groups create`の詳細については、"[ONTAPコマンド リファレンス](#)"をご覧ください。

LIFでONTAPフェイルオーバー設定を構成する

フェイルオーバー ポリシーとフェイルオーバー グループをLIFに適用することにより、ネットワーク ポートの特定のグループにLIFがフェイルオーバーするように設定できます。また、LIFの別のポートへのフェイルオーバーを無効にすることもできます。

タスク概要

- LIFを作成するとLIFフェイルオーバーがデフォルトで有効になり、使用可能なターゲット ポートのリストが、LIFのタイプとサービス ポリシーに基づくデフォルトのフェイルオーバー グループとフェイルオーバー ポリシーによって決まります。

9.5以降では、LIFを使用できるネットワーク サービスを定義するサービス ポリシーをLIFに指定できます。一部のネットワーク サービスでは、LIFのフェイルオーバーが制限されます。



フェイルオーバーをそれまでよりも制限するようにLIFのサービス ポリシーを変更すると、LIFのフェイルオーバー ポリシーが自動的に更新されます。

- LIFのフェイルオーバーの動作は、network interface modifyコマンドの-failover-groupパラメータと-failover-policyパラメータの値を指定することによって変更できます。
- LIFの変更によって、LIFに有効なフェイルオーバー ターゲットがなくなる場合は警告メッセージが表示されます。

有効なフェイルオーバー ターゲットのないLIFがフェイルオーバーしようとする、システムが停止する可能性があります。

- ONTAP 9.11.1以降、オールフラッシュSANアレイ (ASA) プラットフォームでは、新規に作成したStorage VM上に新規に作成するiSCSI LIFで、iSCSI LIFフェイルオーバーが自動的に有効になります。

さらに、"[既存の iSCSI LIF で iSCSI LIF フェイルオーバーを手動で有効にする](#)"ONTAP 9.11.1 以降にアップグレードする前に作成された LIF も対象となります。

- 次に、-failover-policyの設定によって、フェイルオーバー グループからどのターゲット ポートが選択されるかを示します。



iSCSI LIF フェイルオーバーの場合、フェイルオーバーポリシー local-only、sfo-partner-only、`disabled`のみがサポートされます。

- `broadcast-domain-wide` フェイルオーバーグループ内のすべてのノードのすべてのポートに適用されません。
- `system-defined` LIF のホームノードと、クラスタ内の他の 1 つのノード (通常は SFO 以外のパートナー、存在する場合) のポートにのみ適用されます。
- `local-only` LIFのホームノード上のポートにのみ適用されます。
- `sfo-partner-only` LIFのホームノードとそのSFOパートナーのポートにのみ適用されます。
- disabled は、LIF がフェイルオーバー用に設定されていないことを示します。

手順

既存のインターフェイスのフェイルオーバーを設定します。

```
network interface modify -vserver <vserver_name> -lif <lif_name> -failover
-policy <failover_policy> -failover-group <failover_group>
```

フェイルオーバーの設定例、および無効化の例

次のコマンドは、フェイルオーバー ポリシーをbroadcast-domain-wideに設定し、SVM vs3のdata1というLIFのフェイルオーバー ターゲットとして、フェイルオーバー グループfg3のポートを使用します。

```
network interface modify -vserver vs3 -lif data1 -failover-policy
broadcast-domain-wide -failover-group fg3
```

```
network interface show -vserver vs3 -lif * -fields failover-
group, failover-policy
```

```
vserver lif                failover-policy          failover-group
-----
vs3      data1              broadcast-domain-wide    fg3
```

次のコマンドは、SVM vs3のdata1というLIFのフェイルオーバーを無効にします。

```
network interface modify -vserver vs3 -lif data1 -failover-policy disabled
```

関連情報

- ["ネットワーク インターフェイス"](#)

フェイルオーバー グループとポリシーを管理するためのONTAPコマンド

`network interface failover-groups` コマンドを使用してフェイルオーバーグループを管理できます。 `network interface modify` コマンドを使用して、LIFに適用されているフェイルオーバー グループとフェイルオーバー ポリシーを管理します。

状況	使用するコマンド
フェイルオーバー グループにネットワーク ポートを追加する	<code>network interface failover-groups add-targets</code>
フェイルオーバー グループからネットワーク ポートを削除する	<code>network interface failover-groups remove-targets</code>
フェイルオーバー グループのネットワーク ポートを変更する	<code>network interface failover-groups modify</code>
現在のフェイルオーバー グループを表示する	<code>network interface failover-groups show</code>
LIFのフェイルオーバーを設定する	<code>network interface modify -failover-group -failover-policy</code>

各LIFで使用されているフェイルオーバー グループとフェイルオーバー ポリシーを表示する	<pre>network interface show -fields failover-group, failover-policy</pre>
フェイルオーバー グループの名前を変更する	<pre>network interface failover-groups rename</pre>
フェイルオーバー グループを削除する	<pre>network interface failover-groups delete</pre>



フェイルオーバー グループを変更した結果、クラスタ内のどのLIFも有効なフェイルオーバーターゲットを持たなくなってしまうと、LIFがフェイルオーバーしようとしたときにシステムが停止する可能性があります。

関連情報

- ["ネットワーク インターフェイス"](#)

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。